

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・後期・B群
	対象学科・専攻	土木工学科
建築学概論 (General Architecture)	担当教員	未定
	教員室	土木工学科棟2階 非常勤講師室 (Tel. 42-9125)
	E-Mail	-
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位[講義] / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (100分) + 自学自習 (80分)〕× 15回	
〔本科目の目標〕 土木と建築は同じ建設工学の中にある。力学・構造・材料・施工等の部分で共通するものが多いが、細部ではやや異なる点があり、その相違点を理解することが必要である。また建築には、環境計画設備（室内気候・音響等）や意匠設計計画等独自の分野がある。 同じ業務部門においてもこの分野の学習は、重要な意味のあることを認識させる。		
〔本科目の位置付け〕 土木と建築は同じ業務部門で共存することが多く、本科目の内容は、土木技術者として身につけて欲しい建築学に関する基礎知識の学習をする。		
〔学習上の留意点〕 土木工学科の課程で「建築」をどの程度の学習にするか、建築の専門分野は極めて広くこれを建築概論の形で土木工学科の1科目として、建築全般を短時間での学習では、なかなか難しい。力学・材料・施工等は「概論」的な学習に留め、建築環境計画や建築意匠設計設備等、建築専門的要素を詳細な学習と主体的自学自習として、単元毎内容別の課題レポート及び製図課題提出を求める。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1．概論・歴史	2	建築は芸術としての一面もあることを認識し、科学技術のとらえ方及び建築の発達を歴史を理解し、これからの建築の方向性を考えられる。
2．教育	2	建築学科の専門教育の内容（科目）をとらえ方及び同時に建築の概要を理解できる。
3．資格・業務	2	建築生産の形態（建築士・設計者・施工者）と関係業務、工事管理業務と建築士の役割を理解できる。
4．環境計画	2	建築物の形態とその地域の気候とのつながりを理解し、気温・湿度・日照・日射、採光・照明を学習し、日影図の作成ができる。
	4	前項と関連させて温熱要素を組み合わせた有効温度等環境指標を学習し、室内温度・湿度・熱伝導等の基本をとらえ方及び壁体の熱貫流計算について理解できる
	2	快適室内環境を理解し、空気汚染について換気と通風の必要性を学習し計画上の規準を理解できる。
5．音響工学	2	騒音・残響・吸音・反射音などをとらえながら、音響設計ができる。
---後期中間試験---		授業項目1～5についての達成度を確認する。
6．環境工学・法規・設計・製図	4	基本設計のとらえ方、建築関係法規の設計との関わりを学習し、住宅設計の基本事項、住宅の平面計画（プランニング）を学習し、設計課題に基づきエスキス作成し提出する。
	2	環境工学（室内環境計画）を基本にした空気調和計画・給排水その他設備の概要を学習する。
7．荷重分類・材料力学・構造法	2	荷重・外力・応力の種類とその性質、構造材の力学的性質を学習する。
	2	建築の種類と構造法を理解できる。
8．建築一般	2	木構造・鉄骨構造の構造法とその概要を学習する。
	2	鉄筋コンクリート構造・特殊構造の構造的な概要を学習する。
---後期期末試験--- 試験答案の返却・解説		授業項目1～8についての達成度を確認する。 各試験において間違った部分を理解できる。
〔教科書〕 建築学概論（新編土木工学講座22）		
〔参考書・補助教材〕 授業計画・建築史・建築士の資格・建築専門教材（日影曲線、室内気候、換気、音響）・住宅設計資料プリント等。		
〔成績評価の基準〕 中間および期末考査成績（70%）+ レポート（30%）- 授業態度（10%） ただし、中間および期末考査成績は、各定期考査試験点の平均。授業項目1～7についての達成度を評価する		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕1-3		
〔JABEEとの関連〕(d)(2)a)		